

小麦新品種“ダンチコムギ”について

紙屋 貢*・宝満 正治*

KAMIYA, M., and HÖMAN, M. A New Wheat Variety “Danti-Komugi.”

鹿児島県農業試験場鹿屋分場では、今回ダンチコムギの育成をみたので、その概要を発表したい。この品種の育成には我々の外に、渡辺、持田の両技師、平田、白沢の両雇員が関係し、又安間企画官の指導を受けたことについては謝意を表したい。

【Ⅰ】育成の経過 本品種は昭和 21 年農林省農事試験場九州支場に於て交配、農林 60 号×西海 91 号、昭和 22 年 F₂ 種子を鹿児島県農業試験場鹿屋分場に配付、以後同場で選抜固定をはかった。昭和 26 年南九州 42 号と系統名を付して関係県へ配布、昭和 31 年ダンチコムギと命名、鹿児島、宮崎の両県で奨励品種に採用される事になったものである。

【Ⅱ】ダンチコムギの特性と栽培上の注意 本品種は農林 60 号に類似するが、稍晩生で穂は大きい。春播性も農林 60 号程度で高く、早播には不適であるが、晩

播にはよい。赤錆、白渋、赤かび病等に対する耐病性は強いが、萎縮病には強くない。耐湿性も農林 60 号には稍劣り、出穂期後浸水すると葉の枯上りが早くなる。南九州では略々農林 60 号程度の熟期であるが、北九州其の他では稍おくれる。粒は稍小粒であるが多収、良質である。穂数が多い割に穂が大きいのが特徴で、稈もよく伸び多けつであるから、管理が不充分であると、弱小分けつを生じ、又倒伏し易くなる。礫欠土壌に対する適応性の高い事も特性の一つで、當場では勿論、都城、大野、佐賀県北部の礫欠地帯でもよい成績を示している。しかし多収を示す原因が穂数と穂長にあるので、栽培条件は多肥又は肥沃地がよく、礫欠地帯でもよいが、極端な場合はハタマシに劣る。試験成績の一部を示すと次のとおり。

試験地	栽培条件	試験年次	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏	稈長 (cm)	穂長 (cm)	50cm 間 穂数	反当 子実重 (g)	標準 比率	反当子実 容 積 (石)	一升重 (匁)	千粒重 (gm)	品質
鹿児島農試 鹿屋分場	畑 標準	昭 26 ~ 29	ダンチコムギ	4.2	5.21	ム少	90	9.6	88	67.4	118	1.920	347	27.7	上下
			[標]農林60号	4.2	5.20	ム少	88	8.7	83	59.1	100	1.744	336	32.5	上下
鹿児島農試 本 場	田 標準	昭 27 ~ 29	ダンチコムギ	3.31	5.20	ム少	91	9.7	248	99.9	105	2.730	364	30.3	—
			[標]農林60号	3.29	5.17	ム少	90	8.8	246	94.2	100	2.623	361	36.3	—
宮崎農試 本 場	田 標準	昭 27 ~ 29	ダンチコムギ	4.6	5.22	ム多	84	9.2	89	77.6	113	2.224	349	31.7	中上
			[標]農林36号	4.7	5.23	ム甚	97	9.7	71	68.8	100	1.950	353	3.20	中上
			[参]農林60号	4.5	5.22	ム中	78	8.5	78	67.8	99	1.958	348	37.6	中上

【Ⅲ】ダンチコムギの適地 この品種の適応地域は広く、鹿児島、宮崎、高知、静岡等の太平洋に面した暖かい地方で試作成績がよく、又大分、佐賀等の礫欠地帯にも適する。昭和 29 年度の原種決定試験の現地試

験の結果をみても、鹿児島では 18 ヶ所中 16 ヶ所、宮崎では 18 ヶ所中 14 ヶ所、静岡では 19 ヶ所中 18 ヶ所が、夫々の標準品種に優る収量を示している。

要するにこの品種は広い地域や栽培条件に対する適応性が高く、耐病性の強い多収品種といえよう。

* 鹿児島県農業試験場鹿屋分場